

2013年度事業計画概要

【基本方針】

本学の安定的な運営のため、各部門のさらなる合理化と効率化を引き続き進める必要があり、今年度は次に示す重要課題を中心として事業を展開する。

教育については、特待生制度の導入により、教育指導・育成の効果を着実に上げつつあると認識している。また、第6学年をはじめ卒業生に対する国家試験対策については、引き続き積極的な教育体制の整備と学習環境の整備を検討し実施する。

学生募集については、今年度においては、教育、施設、環境などの本学の持つ利点を積極的にアピールして、より効果的な学生募集活動に努める。また、留学生募集については、現地説明会や学校見学会などを積極的に実施し、かつ、入学後の留学生支援体制を強化し、留学生の学習面、生活面におけるサポート環境作りに努めていく。

病院事業については、採算性の改善と事業関連費用の効率化を引き続き重要課題とし、歯科部門、医科部門のさらなる効率的な運営と強化拡充を実施する。また、健診センターにおける健康診断事業の拡大や、地域医療連携による大型医療機器の利用促進に努め、地域貢献と事業の効率化を推進する。

管理運営部門については、上記重要課題に関わる部門を強化し効率的に運営しつつ、コスト削減や組織の効率化を実施する。また、施設設備に関連する支出面については、引き続き緊急かつ不可避の案件に絞った重点措置とすることとし、病院・教育研究関連の購買業務等についても効率化・合理化を重要な課題として、消費支出面での経費削減に努める。

【事業計画】

〈I. 教育・研究〉

■歯学部

- ①建学の理念に基づき、人間教育全体を教育目標の範疇とし、職業専門家としての歯科医師のみならず、人間的倫理観、道徳観を涵養することにより、社会に貢献できる人材育成を行う。
- ②歯科医師としての専門知識・技能習得における礎になるよう、基礎知識・基本技能を理解するための教育学習支援システムを強化する。
- ③自発的学習と自己研鑽を促すため、自らの知識・技能・態度を客観的に判断する力と、向上心を身につけさせる。
- ④心身のケアを図り、既存施設を有効に利用することで、勉学に集中できる最善の環境づくりに努める。
- ⑤将来の人生設計を変更し歯科医師を目指す社会人や他学部から歯学部へ編入学を希望する学生にも対応した入試制度とする。
- ⑥国際的ニーズに対応し、海外からの入学希望者に対しても受験しやすい環境や入試制度を整備するとともに、入学後の支援体制を整備する。

■大学院歯学独立研究科・総合歯科医学研究所

大学院および研究所を中核とした教育・研究の分野では、最先端の教育・研究体制の構築を目指して、人類の共通の課題である生命科学分野への取り組みを一層強化する。

教育においては、“研究型大学院”を掲げて、先端歯科医療の研究と技術開発が融合した研究拠点の形成と、歯科医学分野における総合的な人材育成に取

り組む。また、国際化を目指して、2012年度より大学院の外国人留学生特別選考を行い、秋期受入を実施した。それに併せ、国内においても春期および秋期に学生の受入を実施していく。

研究においては、国内外の多数の研究機関と連携し、共同研究を進め、最先端の研究に取り組む。

■松本歯科大学衛生学院

少子化・高齢化の進展などの環境変化に伴い、社会構造の複雑化とともに人々の生活スタイルも多様化が進んでいる。生活習慣の変化は、生活習慣病を増加させ、健康や医療に対する人々の意識を高め、それとともに国民からの医療従事者に対する要望はますます高度になっている。歯科医療の分野においても、高齢化の進展、医療の高度化・専門化の環境の変化に対応するため、歯科衛生士に対する資質の向上が求められ、修業年限が3年制となったことに伴い2010年度に3年制課程を開設した。また、慢性的な歯科衛生士の供給不足が叫ばれている一方で、少子化に伴う18歳人口の減少から、定員確保が困難になってきており、需給問題に重大な問題が生じている。2013年度は県をはじめ関係機関との連携をさらに深め、学生確保の強化を図る。

〈Ⅱ. 病院・診療〉

本学病院は、病院の理念を実現するため「やさしく、安全、親切で、確かな医療の提供」をモットーとして掲げている。

やさしく、親切的な病院については、患者の立場に立ったシステムをさらに改善し、患者への思いやり、配慮等の気持ちの部分でレベルアップを図る。

また、医療の質、安全の確保体制については、安全性と効率性、適切性の視点からの医療サービスの提供プロセスと管理体制の強化を図る。

〈Ⅲ. 管理・運営〉

基本方針に基づき、施設、設備面や経常的な支出は引き続き見直しを進め、必要最低限なものに絞り込む。基本方針の重点項目以外のコストの削減を図る。